

弘済会報

2025
No.125

「生徒たちが輝いた瞬間」 長崎県立回加高等学校



生活創造コース



オーストラリア研修



壮行式



高総体



海岸清掃



体育祭

公益財団法人 日本教育公務員弘済会長崎支部

日教弘ホームページアドレス
<https://www.nikkyoko.or.jp>

日教弘長崎支部ホームページアドレス
<https://www.nikkyoko.or.jp/company/nagasaki/index.html>



編集・発行

公益財団法人 日本教育公務員弘済会 長崎支部 〒850-0052 長崎市筑後町2-1 長崎県教育文化会館207 ☎095-822-2305

株式会社 長崎教弘 〒850-0052 長崎市筑後町2-1 長崎県教育文化会館206 ☎095-822-2313

★公益財団法人日本教育公務員弘済会(略称(公財)日教弘)の教育振興事業(奨学事業、教育研究助成事業、教育文化事業)及び福祉事業は、教弘保険の契約者配当金により運営されており、日本の教育界に貢献しています。

「穏やかな年を迎えて」

新年おめでとうございます。1月、日本海側の豪雪被害がありました。昨年と比較すると穏やかな年を迎えています。

干支は荒れ狂う辰年から地道に地を這う巳年へ替わりました。いつものことではありますが干支が替わるたびに今年はどうなるのかついつい干支の縁起にあやかり、一年の目標を考えてしまいます。

今年は脱皮して成長する巳(蛇)にあやかり、「自己革新」や「変革」ということを考えてみました。少しでも成長した自分自身や弘済会の目標にしたいと思っています。

昨年は70周年を学校・教職員、子どもたちの皆さんと共に喜びあいたいと思ひ教職員や会員の皆様には三色ボールペンを学校や子どもたちにはチューリップの球根100球をお届けしました。

学校担当LCから先生方の喜びの声を聞くことができました。

また、学校・園からは子どもたちが球根を優しく植えている写真付きの成果報告書をいただきました。私たち弘済会スタッフも一安心の笑顔での新年スタートです。もうひとつ大きな喜びのニュースが飛び込んできました。

それは壱岐高校野球部が春の選抜高校野球大会(甲子園)への出場が21世紀枠で選出されたことです。離島が多い長崎県にとってこんな喜びのスタートは他にありません。たまたま壱岐の中学校の先生とお話しをする機会がありました。

壱岐の先生方が丁寧に地域の温かさで子どもたちを育ててきた成果だと思いました。

一方、世界を見ると分断社会の悪化が危惧されています。「アメリカ湾」や「カナダ州」への勝手な一方的な現状変更は地理学習の基本を揺るがすことになります。

私たちは慌てず振り回されることなく、多くの方と培ってきた「理想」を大切に dialogue・交流を深めていくことが重要だと考えています。

弘済会も「最終受益者は子どもたち」の目標をさらに充実させるためジブラルタ生命保険株式会社との提携関係をさらに深め、学校に寄り添い、しっかりとした「きづな」を先生方と結び合いたいと考えています。

弘済会、長崎県の教育の応援団として自己革新を心掛け、新しい年のスタートを切りたいと思います。今年もよろしくお祈りします。



公益財団法人
日本教育公務員弘済会長崎支部
支部長 江原 進

長崎県立口加高等学校

口加高校は、南島原市の口之津町と加津佐町の町境にあります。また、口之津港は、島原半島の最南端の港で、早崎半島に囲まれた天然の良港です。1562年に領主有馬義貞氏が口之津を開港し、南蛮貿易の拠点として栄えました。

明治35年(1902)、当時県議会議員であった油屋の当主・永野仲藏氏が私立口之津女子手芸学校の創設申請書を9月17日に提出、同年長崎県の認可が下り、

開校の運びとなりました。この手芸学校が、長崎県立口加高等学校の前身となっています。2022年に創立120周年を迎えました。

普通科(普通コース・グローバルコース・生活創造コース)と、福祉科からなる本校では、「豊かなる情感透徹せる知性 強靱なる生命力」の校訓のもと、保護者や地域の皆様に支えられ生徒・教職員ともに毎日のびのびと教育活動に励んでいます。

教育研究助成事業

2025年度 教育研究・活動助成金(募集要項)

各学校において実施される有益な教育研究・活動や児童生徒の学習活動に対して、自由に創造的にご活用いただける助成金を給付します。事業の概要は以下の通りです。

各学校からのご申請をお待ちしております。

○教育研究・活動助成金事業の概要

1 助成対象学校

2025年度は、長崎県内の国公立中学校、高等学校および特別支援学校(中学部・高等部)に対して助成をします。(分校、分教室はそれぞれ1校とみなします。)

2 助成金について

助成金は、各学校5万円とします。(指定口座への振込となります。)

3 対象となる経費

(1)教育研究(活動)…教職員の教育研究(活動)に関わる費用全般

(例) 研究資料等の作成費、教育図書代、研修会の会場費、講師の旅費・謝金等

(2)学習活動…児童生徒の学習活動(部活動を含む)に関わる費用全般

(例) 総合学習等に関わる費用(講師旅費・謝金、諸経費)、上演・文化的活動等に関わる諸経費、教材・教具費、部活動振興に関わる諸経費等

4 対象とならない経費

教育研究(活動)や学習活動とは関係のない人件費、消耗品、通信費、備品、旅費、飲食費、会場費等の諸経費

5 選考について

本会の選考委員会において、申請内容が助成の趣旨と合致している内容となっているかを総合的に審査した上で内定し、幹事会において助成を決定します。

6 申し込み手続きについて

(1)申請方法

各学校から「申請書」および「口座振込依頼書」を本会までご郵送ください。

(2)募集期間

2025年4月1日(火)～4月28日(月) 必着

(3)申請書の送付先(※申請書は4月上旬に各学校宛に送付します。)

〒850-0052 長崎市筑後町2-1 長崎県教育文化会館207

(公財) 日本教育公務員弘済会長崎支部 (TEL 095-822-2305)

◎募集期間中、申請書の様式は本会のホームページにも掲載します。「弘済会長崎支部」で検索ください。

7 研究・活動報告について

研究・活動が終了した時点で、所定の「教育研究・活動助成金成果報告書」をご提出ください。
※会計報告には領収書(コピー可)の添付が必要です。提出期限:2026年2月27日(金)

教育研究助成事業(教育実践研究論文の助成)

研究主題「学校の実態を踏まえ、明日の教育を考える」として、2024年度もたくさんの応募をいただきました。選考委員会での審査の結果、次の方が入賞されました。

入賞の皆様には研究助成金を贈呈し、グループ代表 岡本 琢磨氏 佐世保特別支援学校(グループの部)と長崎市立稲佐小学校(学校の部)と九州文化学園小中学校(学校の部)の論文3点を『日教弘教育賞』(全国表彰)に推薦いたしました。おめでとうございます。(P.5より推薦論文を紹介いたします。)

	氏名	学校名	研究テーマ
個人	片山 司朗	佐世保北高等学校	式の展開、因数分解と平方完成の指導の系統性について ～一人残らずすべての生徒が取り組める教材の作成を目指して～
	今泉 宏	長崎工業高等学校	「2023年度 長崎工業高等学校の人権教育」 ～教科書における部落差別問題の変遷と長崎における差別の歴史～
	原田 潤一郎	長崎市立長崎中学校	多角的な視点で生徒を見守り育む学年経営の展開 ～共有から協働、そして創造を目指す複数担任制の取組をとおして～
	辻 利幸	佐世保特別支援学校 北松分校	特別支援教育コーディネーターの効果的な引継ぎ内容を探る ～特別支援教育コーディネーターへのアンケートを通して～
	小浦 末浩	長崎市立淵中学校	親子での体験活動を重視した防災教育の実践
	戸村 文夫	佐世保特別支援学校	集中の継続時間が短い生徒への教授法 ～15分以内に完結する課題を組み合わせることで50分間集中する～
の部	平井 秀治	長崎総合科学大学 附属高等学校	教科書と新聞のカタカナ語 ～その実態から指導上の留意点を考える～
	松本 光代	鳴滝高等学校 定時制夜間部	保護者との良好な関係づくりを意識した連携方法～夜間部での実践～ ～保護者と両輪になるためには～
	渡邊 順子	五島市立三井楽小学校	多様性社会を見据えた子供の新たな学びの場と関係性づくり ～離島における「異学年交流学習教室」と地域を生かした学びの場づくりの実践を通して～
	安部 優子	鳴滝高等学校 通信制	レポート課題でEnglish worldの窓を開ける ～通信制高校における高校英語入門の役割～
	橋本 長善	長崎市立橋中学校	言語学に関する心理学的考察 ～言語学に関する心理学的一考察～

	代表者名	学校名	研究テーマ
グループの部	辻 利幸	佐世保特別支援学校 北松分校	子供たちの支援につながる観察の視点を探る ～北松分校でのミニミニケース会の記録を通して～
	小浦 末浩	長崎市立淵中学校 長崎市立岩屋中学校	令和7年度全九州中学校特別活動研究長崎大会に向けて
	岡本 琢磨	佐世保特別支援学校 (知的障害教育部門中学部)	生徒の「できた」につながる、特別支援学校における授業のユニバーサルデザイン化についての一考察 ～特性(特に自閉スペクトラム症)の視点に基づいた体育の取組より～

	学 校 名	研 究 テ ー マ	
学	長崎市立稲佐小学校	誰ひとり取り残さない 学びの多様化に応える学校 ～すべての小学校で実践可能な登校支援の取組～	
	佐世保市立祇園小学校	主体的に他者とコミュニケーションをとり、英語等を用いて自分の思いやりや考えを発信することができる子どもの育成 ～発信手段や発信する場及び言語の選択を工夫して～	
	南島原市立口之津中学校	教科等横断的・校種縦断的で主体的な学びの試み ～自身の未来とふるさとへの想いや構想が主軸となる学びの構築～	
	新上五島町立東浦小学校	地域人材を生かした学校づくり「学校のサポーターからパートナーへ」 ～「つながり」を考えた学校づくり(コミュニティ・スクール)の展開～	
校	新上五島町立有川中学校	教職員一人一人が自らの専門性を発揮するための新たな体制づくり ～専門スタッフ参画によるチームとしての学校づくりを通して～	
	新上五島町立有川小学校	新聞で地域の魅力を再発見する子どもの育成 ～「大すき」を伝える新聞づくりを通して～	
	九州文化学園小中学校	教育DX時代に求められる新たな学力向上対策の取組 ～小学校算数科におけるAIドリルを活用した個に応じた学習指導の強化～	
の	小値賀町立小値賀小学校	自律に向かう挑み続ける小値賀っ子の育成 ～コーチングの手法を取り入れた学校経営～	
	五島市立岐宿小学校	互いを認め、楽しく学び合う岐宿っ子の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた算数科授業改善と児童理解を通して～	
	部	島原市立第五小学校	全職員で共通理解・共通実践する「働き方改革」の実現を目指して ～「意識×環境×行動」の取組を通して～
		西海市立西彼北小学校	やりたいがあふれる学校の創造 ～児童・保護者・地域の主体性を生み出す学校行事の創出～
		佐世保市立楠栖小学校	地域(ふるさと)を愛し、夢に向かってたくましく生きる子どもの育成 ～小中一貫コミュニティ・スクール「海光る町学園」としての実践を通して～

2024年度 教育研究助成事業・教育実践研究論文選考委員

浦川 末子 長崎県更生保護女性連盟・会 長 田添 俊和 三 重 中 学 校・校 長
野崎 晃由 県教育センター・主任指導主事 井上 潤一郎 清 峰 高 等 学 校・校 長
中村 俊一 県教育センター・主任指導主事 峰 薫 佐世保東翔高等学校・校 長
飯島 由紀 三 重 小 学 校・校 長 三藤 理絵 県教組・中央執行副委員長(大村特別支援学校西大村分教室)
瀧上 卓也 大 園 小 学 校・校 長 坂下 里美 高教組・執行委員(島原高等学校定時制)
百合野寿美子 小 江 原 中 学 校・校 長

生徒の「できた」につながる、特別支援学校における授業のユニバーサルデザイン化についての一考察 ～特性(特に自閉スペクトラム症)の視点に基づいた体育の取組より～

長崎県立佐世保特別支援学校(知的障害教育部門中学部) 体育担当グループ代表:教諭 岡本 琢磨

I はじめに

今回の研究は、以前の職場である県立虹の原特別支援学校高等部対馬分教室(以下、分教室)で、H28からH31(R元)年度の取組を基に紹介する。

分教室は、長崎県大村市にある知的障害特別支援学校の分教室として、韓国に程近い島、対馬市の厳原町に位置する。県立対馬高等学校の校舎の一角にあり、歓迎遠足、体育大会や文化祭、持久走大会等は共同で開催し、交流を図っている。生徒数はH31(R元)年度9名(職員数9名)と、アットホームな雰囲気である。

さて、体育についてのイメージを生徒に聞いてみると、「楽しい」との回答の一方、「嫌い」「きつい」などの回答も非常に多かった。実際に中学校までの体育の経験の中で、つまづいてきたエピソードを伺っており、一見頑張っているように見えて、苦手意識や自信の無さを感じている生徒も少なくなかった。

II 主題設定の理由

分教室(大村の本校と同様)の目指す生徒像の一つに、「たくましく主体的に行動する子供」がある。また、本校が推進しているキャリア教育の中で、生徒が主体的に取り組んで「できた」と達成感が得られる授業の重要性をうたっており、全ての生徒にとって「できた」が積める授業環境のユニバーサルデザイン(以下、UD)化は鍵となる。特別支援学校においては、個々のニーズに応じた支援の重要性がある一方で、他校種の学校同様、集団や小集団での授業編成が一般的であり、「多層型支援モデル」で学校生活環境を整えること、まずは一層目「全生徒対象=UD」の基盤作りが重要であると考えている。

分教室生徒の実態傾向として、知的発達症(知的障害、以下IDD)をベースに、注意欠如多動症(以下、ADHD)や、特に自閉スペクトラム症(以下、ASD)及びその傾向という診断生徒が多い。その障害特性上、見通しがもてないことに不安を覚え、逆に見える形で示されると理解しやすいと言われている。

「特性(脳の情報処理の仕方の特徴)」を踏まえ、ネガティブなことに対しても、見通しや見える形での理解をすることで、「できる、分かる」経験の積み上げとなり、不安の軽減だけでなく、実践し「やればできる」という自信を湧き上がらせ、能動的に取り組む姿勢につながれると考える。これは、IDDやADHDの特性も同様である。中でもASDの方は、日本の風土や社会環境において、他の障害に比べて分かりづらさを感じることも多く、困りごとにつながりやすいと言われることもある。つまり、ASDの特性を基盤とした支援環境を整えることで、IDDやADHDの方にとってもより分かりやすい環境につながるのではないかと考える。

そこで、特にASDの特性を踏まえた体育の授業におけるUD化の取組みを中心に、様々な「見える化」を図りつつ、いかに環境調整を行ったかについて述べたい。成果や生徒の変容等については、数値化できる評価を設定していなかったため、教師陣の観察や生徒・職員への聞き取りによる変容について述べたい。

III ねらい

体育の取組の中で、特にASDの特性を踏まえた「見える化」を図り、生徒の「できる、分かる」が増すことで、見通しをもって安心して取り組んだり、能動的に「やってみよう」とする言動が現れたりするのではないかと考えた。そのために、授業環境のUD化をいかに行えばよいかの視点に着目し、取り組んだ。

IV 研究仮説

前述を踏まえ、本研究における仮説を立てた。

- ①日々の体育の授業で、生徒の特性(特にASD)を踏まえた、授業環境のUD化を行うことで、生徒が見通しをもち、安心して授業に参加し、学習活動に意欲的に取り組めるのではないかと考えた。
- ②授業環境のUD化を行うことで、職員にとっても、効果的・効率的な授業運営につながるのではないかと考えた。

ないか。

V 研究(取組)の概要

- 「冰山モデル」の考え方を基に、生徒集団の“表面上”の実態を、7つの視点から整理する。
- 生徒集団の実態を“水面下の背景要因”として考えられる「特性をカテゴリー別に整理」する。
- 「特性」を踏まえ、授業全体における支援環境のアイデアを出し合い、実践する。
- 以上について、「授業レイアウト」としてまとめる。

VI 研究(取組)の実際と考察

1. 実際の取組について

(1) 生徒全体(集団)の実態把握について

集団の実態について、七つの視点で状況を整理した。

① 指示や内容の理解について

教師の説明やそれを基にした活動が授業の基本であり、生徒の理解状況の実態は欠かせない。

② 思いの表出や人とのやり取りについて

授業では、①に加え、必然的に教師と生徒とのやり取りを通じて進めていくことになる。

③ 道具等の整理や準備について

体育では、教材教具を活用したり、健康管理のための準備物を持参したりすること多く、それらの整理や準備が欠かせない。

④ 授業を行う場の環境について

教室以外の屋内・外での授業が行われることが多く、場の環境(広さ、気温、周囲の事物や情報等)も学習活動への影響が大きい。

⑤ きまりの順守やモラル、参加意欲について

授業、特に仲間と協働した授業形態を基盤にするため、内容理解と秩序を保つためのルール設定が必要であり、参加意欲にも関係する。

⑥ 作業的な取組の状況について

実体的な身体を使った運動活動の取組状況についても授業計画・運営等に必要な情報である。

⑦ その他

その他、授業に係る実態についての情報。

表1 生徒全体(集団)の表面上の実態傾向について

* ●: 課題(弱み)、○: 強み
<1. 指示や内容の理解について>
●口頭指示で伝えても内容を理解していなかったり、(特に全体指示の場面において)話を聞いていなかったり、忘れてしまうことが多い。○不器用さはあるものの、簡単な動作であれば、手本を示すと模倣できる。●一見会話話が成立しているかのように話したり返事をしたりするが、的外れなこ

とをする、自分の気持ちをうまく伝えられない。●口頭で伝えても内容を理解していなかったり、話を聞いていなかったりすることがある。●授業の流れ等の明示(口頭指示以外)がないと、流れに乗れず、指示を待つ、不安になる、混乱する等の言動を示すことが多い。○画面に映し出した映像は、よく注目している。●体操隊形の間隔等、おおよその距離感を図って並ぶ、「このあたり」を理解して適切に移動することが難しい。●急に口頭などで変更・中止すると、不安や混乱の言動を示す。●勝手な解釈や、急に話(話題)が飛んだりすることがある。●冗談が通じず、字義通りに解釈してしまう。○毎回行う号令や体操、活動等は、ルーティンで覚えている生徒がほとんど(正確ではない)。●集合しても、うろうろと立ち回る生徒がいる。●休憩時に指示がないと、水分を取れなかったり、取るように指示しても、拒否したりすることがある。

<2. 思いの表出や人とのやり取りについて>

●大人とはよく話すが、仲間とはうまく話せない生徒もいる。●表情が一辺倒で、感情等が読み取りにくい生徒がいる。●相談や報告の指示を出していても、うまく伝えられない生徒がいる。

<3. 道具の整理や準備について>

●道具を持ってこなかったり、置き忘れたりする。●持ってきた道具を整理できずに、机やその場などに広げてしまう。○明示があれば、道具かごを決まった棚の位置(場所)にしまうことができる。

<4. 授業を行う場の環境について>

●周囲の興味を引かれたもの、色々な音や人のざわつきで、注意がそれたり、話が聞けなかったりする。●寒暖への敏感さ、汗等への不快感、大きな音や突然の音への苦しさ、まぶしさへの過敏さなどを訴える生徒がいる。

<5. 授業のきまりの遵守やモラル、参加意欲について>

●集合場所に集まらず、歩き回る、集まっても止まらない生徒がいる。●集中できずに、周囲としゃべってしまうことがある生徒がいる。●過去の失敗経験等により、体育が苦手な生徒がほとんど。

<6. 作業的な取組の状況について>

●体の動かし方のぎこちなさや不器用さ、力の加減の難しさがある。●ある場所ですることが、別の場所になるとできなくなることもある。

<7. その他>

●休憩時間にぼーっとしている生徒が多い。●きちんとしたい生徒が多い。

(2) 生徒全体(集団)の特性について

行動の背景に起因するであろう特性を考え、整理するにあたり、水野敦之氏の特性シートを参考に、カテゴリー別に整理した。

表2 生徒全体の特性について

言動の背景となる生徒の特性 ○: 強み ●: 弱み
1. 受容コミュニケーション ●言語指示だけでは伝わりにくい。●一度に伝える量が多いと必要な情報を理解しにくい。○見える形での手本があると理解しやすい。
2. 表出コミュニケーション ●困っていることをいつ・どのように・どのタイミングで相手に伝えるかに迷い、不適切な伝え方や伝えること自体が難しいことが多い(一見、分かった素振りもするが)。
3. 社会性・対人関係 ●周囲の社会的な状況をつかめずにマイペースな言動がある。社会性のレベルは様々で、「協力」が難しい生徒も多い。●セオリ・オブ・マインド、共同注意、メタ認知等の弱さがある。
4. 注意・注目 ●気になる事物に注意を引っ張られ、必要な情報に注目しづらい。●一度に伝える量が多いと一部だけを捉えてしまいやすい。○注目すべきフレームや手本があると、注目・理解しやすい。
5. 時間の整理統合 ●見える形を何と、どのくらい、どこまですればいいかの見通し(時間の組み立て)がないと不安や混乱の言動を示しやすい。○タイマー等見える形で示すことで終わりが分かる生徒が多い。
6. 空間の整理統合 ●空間をイメージして立ったり、待ったりするのが難しい。

7. 変化の対応
●急な日程変更等があると見通しがもてず、不安や混乱の言動を示しやすい。
8. 関係性の理解
●自分のイメージに関連付けて考えたり、字義通りに解釈したりしやすい。
9. 記憶
●一時的に記憶したことの記憶の維持が難しい。●本人にとって印象的だった過去の記憶(失敗経験含む)をよく覚えている。○一度正しい方法を学ぶと、それを継続することは得意。●定着し過ぎて、修正・変更が難しく、誤学習しやすい。
10. 感覚の特異性
●触覚・聴覚・視覚・前庭覚・固有覚等の過敏や鈍麻な生徒がいる。
11. 微細運動・粗大運動等
●体の動かし方のぎこちなさや不器用さがある生徒が多い。●目と手の協応運動や見え方に困難さをもった生徒が多い。
12. その他
●○「ちゃんとしたい」気持ち強い●表情による適切な感情表出が難しい生徒も少なくない。

(3) 特性を踏まえた授業全体の支援環境のアイデア(UD)

特性の強みや困りごとを踏まえ、支援のアイデア(UD)を考えた。実際のアイデアについて、今回は、H24年に埼玉県立総合教育センターが出した研究報告書内の「授業づくりの12のポイント」、今本繁氏が『応用行動分析に基づくASDの人のコミュニケーション支援』という著書内で述べている見通しを参考に、以下の7つの視点でまとめ、紹介する。

1) 「場」の環境調整及び見通し(図1参照)

- マーカーコーン等にて、並ぶ・立つ位置や走るコース、場所(活動域、スタート、ゴール等)の明示。
- 学年毎に色違いのシートを準備し、道具の置き場所を明示する。
- 各個人で授業に必要な道具をワンセットに整理すると共に、道具のリストを明示。
- 授業に必要な道具をワンセットに整理すると共に、道具のリストを明示。
- 「個別の指導を一人だけに行うわけではなく、誰にでもそのような機会をもつこと」、「必要であれば、支援は使っても良いという環境作り」、「挑戦したことに対し、やじったり笑ったりしないし、それを教師は見逃さないという表明」など、授業中、安心して取り組める場の設定(説明等)を行う。

2) 「予定や変更」の見通し(図2参照)

- 持ち運び型ホワイトボードにて、その時間の授業の流れの提示。(休憩や水分・塩分摂取も)

3) 「活動の終わり」の見通し(図3参照)

- 活動の終わりを「量」や「タイマー」等で明示。
- 一つの活動の量(時間)を短く設定し、それを組み合わせて授業を構成する。

4) 「活動のやり方」の見通し(図4参照)

- 準備や片付け等における各生徒の役割がある場合は、名前札等で明示。
- 準備運動及びストレッチの流れとリズムを、手順書(写真式・タブレット式)とメトロノームで明示。
- ダンスやラダートレーニング、長距離走、準備運動等、映像や画像、モデル(先行・同時)や動くリズム(手拍子・メトロノーム)などを示して、調整して取り組む。

5) 「コミュニケーション」の見通し(図5参照)

- 相談の仕方(尋ね方)が分かるように「相談シート」を提示する。
- 指導や説明の際、「まずは～、(終わったら)次に～」と提示をする。

6) 「行動の結果」の見通し(図5、6参照)

- 授業のルール(約束)や聞く姿勢をカードで提示。
- 相談の仕方(尋ね方)が分かるように「相談シート」を提示する。

7) 「ルール」の見通し(図6、7参照)

- 授業のルール(約束)や聞く姿勢をカードで提示。
- 生徒が連絡・報告するその日の教師の名をホワイトボードに書いたり、腕にマーク等を付けたりするなど、明示化を図る。
- 事前に服装の指示や水分補給・トイレ等を明示する。



図1 位置や方向の明示(マーカーやラバーリング等の活用)

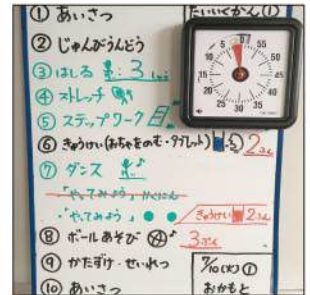


図2 授業の場所・流れ・量

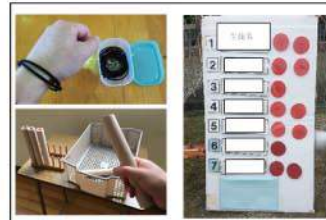


図3 回数の明示(ゴム、木製パチン、周回チェック表等の活用)



図4 映像・画像等による活動の明示

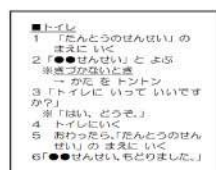


図5 報告・質問等の仕方の明示

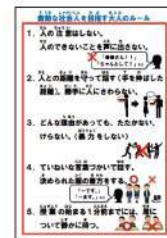


図6 全授業のルールの明示



図7 服装の明示

(4)「授業レイアウト」による整理について

授業の全体構成表として、前述の生徒の実態、特性、授業全体の支援のアイデア(UD)に加え、①授業名、②対象生徒、③実施曜日・時間、④授業の目的について情報を整理した。また、特性の記載で使用される専門的な用語の説明や、支援のアイデアの画像についても掲載し、授業者が内容を理解し、支援を活用しやすい工夫を行った。(図8参照)



図8 授業レイアウト(体育)

2. 考察(生徒・職員の様子から)

これまでのことを踏まえ、生徒の様子や職員の実態などから、仮説について考察したい。

①特性(特にASD)を踏まえた、授業環境のUD化による生徒の変容

授業全般で戸惑い少なく、円滑に、落ち着いて取り組んでいた。加えて、気軽に教師に相談し、見通しにつながる生徒が増えた。また、支援に依存せず、活用して、新たな取組でも意欲的にのぞめる生徒が増え、結果的に運動パフォーマンスの向上につながった事例も多い。背景の一つとして、特性に応じた学習を積み重ねられたことで、生徒自身が理解し、安心し、自信をもって行動できたからではないかと考える。

②特性(特にASD)を踏まえた、授業環境のUD化による教師の変容

支援環境の整備・調整は思考や手間がかかるが、生徒の主体的な言動を確認でき、実践の有用性を感じる職員が増えた。新たな単元や別の授業でも、同じ視点で取り組み、同様の実感を得られた。また、授業準備や流れもパターン化・イメージ化でき、手間感も軽減され、手厚い支援が必要な生徒への個別対応もしやすくなり、効率性を感じる職員も増えた。

3. 今後の課題

四年間で、生徒が主体的に豊かなパフォーマンスを発揮するための基盤作りや、周囲の職員の理解がやっと芽生えた思いであった。ASDの特性を基盤としたUD化の有用性が感じられた。また、今回体育で整えた「授業レイアウト」は、他の教科の授業レイアウトを考えるための基盤になるとも考える。しかし、一方で課題も多い。以下、大きく五点を挙げる。

①職員員の「基本的な特性理解やそれに応じた支援の活用」(甘えや支援への依存との誤解等)及びそのための「研修システムの構築」(理解者がいなくなれば途絶える等)

②「見通し・可視化のある学校生活環境の整備・改善」

③「見通し・可視化のある職員員の授業運営・校務運営システムの整備・改善」

④「生徒への肯定的な関わり方(伝え方)」による、意欲のもたせ方の質の向上(毅然とした態度も含む)

⑤UDだけでなく、「個別の支援との融合や組合せ」

Ⅶ おわりに

生徒は、これまでの学習の中で「できた」を積み重ね、「頑張りたい」「認められたい」という気持ちの基盤が整いつつあり、自己肯定感の高まりを感じた。

「できた」を積み重ねていくには、特性理解に基づく日々の指導・支援という環境調整が不可欠である。

体育が大嫌いで入学してきた生徒が、分教室での学びを通じ、「体育は嫌いで苦手だが、なぜかこの授業は分かりやすく楽しい」「分からない、相談したい」等と伝えてくれるようになり、感慨一入である。

今後も(職場環境が変わっても)、生徒の特性を軸に背景を探り、環境を整え、生徒の「できる、分かる」が「やってみよう」につながる指導・支援を、チーム(教師陣)として取り組んでいきたい。

Ⅷ 主な引用・参考文献等

- ・埼玉県立総合教育センター(2015)「小・中・高等学校及び特別支援学校におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践に関する調査研究(最終報告)」
- ・水野敦之(2015)『「気付き」と「できる」からはじめるフレームワークを活用した自閉症支援(第5版)』エンパワメント研究所
- ・今本繁(2021)『応用行動分析に基づくASDの人のコミュニケーション支援』中央法規

誰ひとり取り残さない 学びの多様化に応える学校

～すべての小学校で実践可能な登校支援の取組～

長崎市立稲佐小学校 校長 岡田 政宏

I はじめに（不登校対策の成果）

はじめに、この研究の取組の成果について、以下の表（図1）をご覧ください。文部科学省が不登校と定義する「病気や経済的な理由などといった特別な事情がなく、年間の欠席日数が30日以上となった状態」の児童は、令和5年度の末時点で本校に13名存在した。その中で特に欠席日数が多い女子児童が5年生（5年度）に集中しており、A児160日、B児100日、C児61日、D児149日という欠席状態であった。A児は学習に苦手意識を持っており、B児とC児は心理的な不安を抱えている。特にC児は5年生の2学期終盤から急に不登校傾向に陥っている。D児は支援学級に在籍しており、心理的な不安に加え、基本的な生活習慣にも課題を抱えている。

5年度 (昨年度)			6年度1学期(4/9～7/19)					
			本年度 の学年	別室 利用	不登校 傾向性	病欠	事故欠	改善 傾向
5年	女児A	160	6年	○	4	0	4	↗
5年	女児B	100	6年	○	18	6	14	↗
5年	女児C	61	6年	○	21	19	2	↗
5年	女児D	149	6年	○	19	0	19	↗
4年	男児E	115	5年	△	0	1	5	↗
4年	男児F	40	5年	△	0	1	0	↗
4年	男児G	35	5年	△	3	3	0	↗
2年	男児H	45	3年	△	17	14	3	→

図1 不登校児童の欠席状況比較（令和5年度→令和6年度）

本年度に入り、まず小学校内に教室に入れられない児童を支援するための別室（以下「SSR」と呼ぶ。スペシャルサポートルームの略）を設置し、先に示した4名が利用できるようにした。4～7月の1学期間を経過した不登校傾向に関連した欠席は、A児4日、B児18日、C児21日、D児19日であった。B児は、家族で話し合い週に1日程度は自主休校の日を設定することとし、計画的に月に4～5日は欠席するが、学校としても了承している。C児は深夜までゲームをするなどメディア依存が気になるが、不安なことが多い中、相談を聞き合うオンライン上の友達の存在もきちんと報告していることから、生活習慣に気を付けながら様子を見ている。D児は、担任が母親と毎朝メールでやり取りし、自宅玄関まで迎えに行き、一緒に元気に登校できている。現在SSR利用の4名以外はすべて教室に入ることができており、E児、F児童は、不登校傾向に関連した欠席

は共になく、G児は3日にとどまるなど、各学級での地道な支援も見逃せない。

II 研究の内容

1 SSRの設置構想

本校では、令和6年度の学校経営の柱に「誰もが安心して学べる学びの多様化に応える学校」を位置付けた。学校のペースやルールが合わず、集団に同調できない子どもたちが増えている。国も不登校という状況を問題行動ととらえず、学校復帰だけではなく、社会的な自立をゴールに見据えて支援するよう示している。また、特別な教育課程を編成して、対象の子どもたちを受け入れ学びの保障を各地で行ってきた全国各地の「不登校特例校」は、一律「学びの多様化学校」と呼び名を変更した。これらの流れを受け、本校ではあえて「不登校対策」とは呼ばずに「学びの多様化対応」とよび、図2のようなステップを示した。

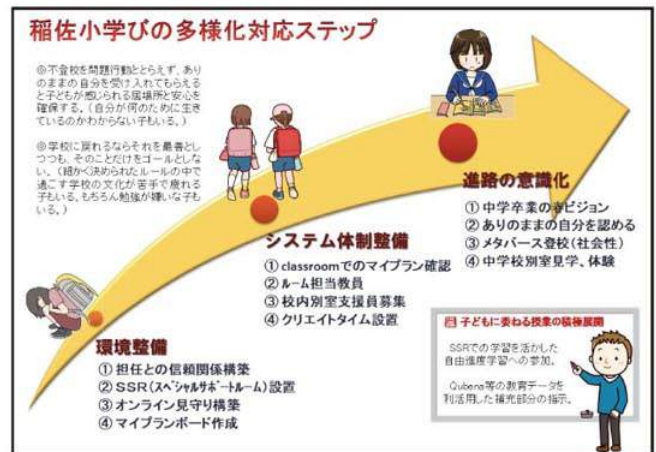


図2 「稲佐小学びの多様化対応ステップ」

2 ICT機器の有効活用

まずは、新任との信頼関係は何にもましてこれらの対応のベースとなる。4名の児童の3名の担任には、従来の対応にこだわらず、本人が安心してコミュニケーションできるやり方を試行するよう指示した。ある児童に対しては個人メッセージのやり取りを、ある児童に対しては養護教諭がパイプ役となり、ある児童に対しては定期的にSC（スクールカウンセラー）の面

談を親子で受けられるように調整した。

そうした人間関係の土台の上にSSRを6年生教室と同じ4階フロアの資料室を間仕切って設置した。しかし、この部屋には空調がなかったため、6月になると蒸し暑くなり、扇風機やスポットクーラーで凌いだ。7月になると気温もさらに上がり、熱中症も心配されたことから1フロア下がり、3階にある少人数指導教室に移動した。突っ張り棒に市販カーテンを付けて簡易的にパーティションを設置したが、これがなかなか使い勝手が良い。自由にパーティションのレイアウトができるのだ。児童が「4階の方が教室に行けるときに抵抗なく行きやすいし、友達も声をかけに来てくれるからいい。」と訴えているので、涼しい11月になったらまた移動することになっている。その際、不要になるこの突っ張りカーテンのパーティションは、興奮すると自分を抑えきれなくなる児童がクールダウンする場所でも有効に使えるようである。



写真1 「SSR」内で学びを進める児童

2 オンラインによる見守りとマイプランボード

中学校と比較しての小学校の弱点は、ほぼ全員が学級担任か専科を担当しているため、SSRに常駐することができない点である。また、長崎市の場合、中学校は心の相談員が定期的に訪問し、SCの派遣日数も多い。つまり、この方々が一時的にSSRを見守ることができるのである。だからといって管理職や養護教諭等が常駐すると通常の学校運営に大きな支障が生じる。そこで、利用する児童に同意を得たうえで、新型コロナウイルス感染症対策として一般化したオンライン会議システムをモニタリングシステムとして、「SSR」「保健室」「6年1組」「6年2組」そして「校長室」を常時カメラでつなぐこととした。その際に利用したのがICT機器やテレビモニタの再利用だ。児童が不注意で落下させ、通常利用ができなくなった学習者用パソコン（長崎市はChromebookを採用）をSSRと校長室の映像の送受信装置として利用した。特に、校長室には、廃棄

処理されようとしていた古い大型テレビをモニターとして壁面に取り付け、学習者用パソコンで受信した映像を大きく映し出すようにしている。さらに、同モニターには、保護者連絡ツールで欠席や遅刻の連絡がリアルタイムに届く「tetoru（テトル）」の画面を映し出しており、本日は何時ごろ登校するのか、または欠席するのかなどの情報もわかるようにした。SSRにいる子どもたちに伝えたいことがある場合には、内線電話のように音声で伝え、子どもたちから伝えたいことがある場合には、チャット機能や音声でやり取りできるようにしている。



写真2 SSRとオンライン中継する校長室モニター

さらに、児童に自己選択・自己決定したことを継続してやり抜く経験をさせるために、ホワイトボードで「マイプランボード」を作成し活用させた。



写真3 毎朝マイプランボードで自己選択・自己決定

今日は何時に来られたのか、給食はどこで食べて何時まで学校で頑張るつもりなのか、学ぶ場所はすべて「SSR」なのか、気に入った教科は「教室」で授業に参加するのか、オンラインで授業に参加するのかなどを該当するワードが書かれたマグネットを張りながら考える。後に（6月以降）、自分の考えを他者（担任等）に表明し、記録に残す意味で、学習者用パソコンで撮影し、Googleクラスルームのクラウド内に作成した「SSRのクラスルーム」に

投稿する活動にも移行した。投稿を見て、担任や校長はアドバイスや感想などの短いコメントを返すようにしている。しかし、6年生といえども自分の学びに何が足りないのか何を優先して学べばいいのか、客観的に捉えなおして学びを調整する力はまだまだ十分ではない。そこで、可能な限り朝から担任が入り、アドバイスをするようにしている。ただし、登校時間が不規則であり、担任が教室で授業中のこともあり、必ずしも毎日適切なアドバイスができていたわけではない。



写真4 クラウドに投稿されたマイプランボード

3 校内別室支援員の発掘

運動会も終わり、「SSR」の運営が軌道に乗りに始めた5月末、「稲佐小学びの多様化対応ステップ」は、次の「システム体制整備」のステージに進んだ。

まず、4名の児童のうちの1名の支援学級担任にSSRのルーム担当となってもらい、時間に余裕がある場合は入室の上、声かけやアドバイスできるようにした。さらに、本年度から長崎市が謝金を予算化した校内別室支援員の活用を検討した。本制度は、校内別室での児童の学びの見守りや声掛け、さらに話し相手やレクリエーションといったコミュニケーション育成をサポートする地域のボランティアを学校が発掘し、支援実績に対して謝金を支払うというものである。つまり、人材がないと予算があっても活用できないのである。そこでまず、地域住民の相談に応じ必要な援助を行うとともに、地域の子どもの見守りや子育ての相談にも応じている民生委員児童委員の代表の方に相談した。その中で、域内で委嘱された民生委員児童委員の方々はその他の役職も掛け持ちでされている方が多く多忙を極めており、後継者育成も課題となっていることを伝えられ、「他の活動に支障が出ないこと」「個人の生活に大いなる負担とならないこと」に留意して依頼するようお願いされた。このことを踏まえ、まずお願いしたのが主任児童委員のお一人であった。具体的に何をし

たらよいかわからないとおっしゃりながらも、可能な時だけ参加していただけることになった。同時にもう一名の主任児童委員にもお声掛けいただき、そこからさらに民生委員児童委員が加わり、合計3名の校内別室支援員が誕生した。不定期だが、各人調整いただき、おおむね週1ペース、つまり5日間のうち3日は支援員がいることとなった。教員ではないので授業を進めることはできないが、マイプランボードでの計画の援助や学習の見守りを行っていた。また、次項で論ずるクリエイティブタイムとしてのカードゲームで共に楽しんだり、児童の不安定な心の聞き役となったり、と信頼関係を深めており、児童も支援員が来校する日は特に楽しみにしている。



写真5 児童と談笑する校内別室支援員

4 クリエイティブタイム

長崎市教育局が長崎市民会館で運営する「適応指導教室『ひかり』」、令和5年度から名称を「学びの支援センター『ひかり』」と改め、学校にいけない、教室に入れない小中学生が常時20名前後利用している。ここでは、通級してきた子どもたち同士が、カードゲームなどを通してコミュニケーションを楽しみ、人との距離感を確かめ、心の元気を貯めていく「クリエイティブタイム」という時間が設定されている。家庭に閉じこもりがちな子どもたちは、家族との交流以外、社会とのつながりが途絶えがちになる。学習も大事だが、まずは、人とのつながり、心のエネルギーを満たすことが、社会的な自立の第一歩になると考えてのことである。この「ひかり」での活動を参考に、「SSR」も「校内学びの支援センター」として、この「クリエイティブタイム」を導入した。グッズはいたって簡単なトランプやUNO（ウノ）である。1日1時間以内というのを基本ルールとしている。（なかなか、学習する気分にならないときは、ついだらだらと長くなってしまいう時もあるが、あえて静観している。）子どもたち同士、子どもと支援員、複数の子どもと支援員などその組み合

わせはその時の気分と構成メンバー次第である。当初、他の子どもとのコミュニケーションを好まないC児は、クリエイティブタイムに参加せず、他の児童と離れた机で黙々と学習を進めていたが、SSRという空間での仲間意識や支援員の働きかけもあり、短時間であるが「クリエイティブタイム」に参加するようになった。



写真6 クリエイティブタイムに笑顔で交流する児童

「学びの支援センター『ひかり』」のスタッフにクリエイティブタイムで子どもたちに人気なツールは何か尋ねたところ、「ボード系では、ブロックス、オセロ、マンカラ・カラハ。カード系では、なんじゃもんじゃ、人狼ゲーム、ワードスナイパー、ミツカルタ」とのこと。さらに、「話すことが苦手な子は、話さずできるボード系を好み、語彙力やコミュニケーション力がある子は、カード系を好む傾向がある。」と助言いただいた。多くの子どもたちを長年支援してきた実績があるスタッフの助言なので、今後の本校運営に生かしていきたい。

III 成果と課題

まずは、SSRという当該児童の校内の居場所を確保できたことで、教室には入れないけれども、自分にはSSRがあるし、話を聞いてくれる担当の先生や支援員がいるという安心感を持てたことが大きな成果につながっていると思われる。

7月、SSRを利用している6年女児4名について、学習意欲に課題を残している児童もいるが、自分が選択した教科に関しては、4名とも教室に入り、クラスメートと一緒に授業に参加できるようになってきた。2学期(9月)からは、A児とB児は朝から教室に入れるようになり、集団が苦手だったB児も一緒に給食、そして午後からの授業も受けられるようになった。C児も9時台の登校を目標

にほぼ毎日登校。まだ特定の教科しか教室では過ごせないが、ほぼ1年ぶりにSSRで給食を食べることができるようになった。

一方で、以下のような課題もしっかりと見えてきた。

- 登校時間が定まらず、難しいが、可能であれば毎朝誰か教職員が付き、一日の学びの計画立てについて助言できる体制が欲しい。
- 学習に前向きになれないA児がだらだらと過ごしてしまう時があり、B児がつられてしまう。(家庭ではゴロゴロしていたのが、学校まで毎日足が向き、時間としては長くないが、集中して学習に取り組むときもあるので、それでも前進だとは思っているが…)
- 時間を巻き戻すことはできないので、なんとか小学校卒業までの間に、中学校卒業時の「進路(社会的な自立)」のイメージをもてるようにしたい。

IV おわりに

1学期末に実施した、教育活動に関する教師の自己評価において、「SSRの設立が不登校児童を救っています。」や「子どもたちの居場所ができて大変助かりました。」といったSSRに対する肯定的な意見が並んだ。昨年度5年生の担任だった教師は「こんなに、成果が上がる取組なのだと分かった。昨年度もこのような対応ができていたら、安心して登校できていたかもしれない。」と感想を漏らす。

最後に、5年生の2学期終盤から不登校傾向にあったC児が「SSRができたこと」「SSRで過ごした日々」などの感想を綴っているので紹介する。

「SSRで過ごしていて感じるのは、やはり安心できること。そして負担が減るという点です。教室では不安感がありますが、SSRでは人数が少ないということもあり、少し安心することができました。先生方の配慮やSSRに来てくださる方(校内別室支援員等)のおかげで、負担が少し解消しました。友達としゃべれたことや先生がSSRまで来て勉強を教えてくださいましたことは、SSRがあったからできたことです。2学期の目標は、もっと教室に入ること。早く具合悪さを治すことです。1学期はなかなか教室に入れず、成績にあまり反映できなかったのもっと成績を上げられるよう努力したいです。(C児)」

今後、SSR利用の4名で進学予定の中学校を訪ねし、別室での様子やSC(スクールカウンセラー)との面会。中学校の先生による学校紹介等を予定している。

教育DX時代に求められる新たな学力向上対策の取組

～小学校算数科におけるAIドリルを活用した個に応じた学習指導の強化～

九州文化学園小中学校 校長 橋本 信博

1. はじめに

研究の背景と目的

本校では、開校時（令和元年度）から一人一台端末の活用を含む教育DXの取組を強力に推進しているが、特に算数科では、デジタル教科書とデジタルドリルを積極的に活用し、児童一人一人の学習の個別最適化と学力向上に取り組んでいる。

特に、今回の学習指導要領の改訂に合わせ、国主導でGIGAスクール構想の取組強化が進んでいるが、本校では開校当初からBYOD方式による1人1台端末の整備と日常的な活用を進めており、特に算数科では、学習者用デジタル教科書に加えデジタルドリルについても積極的に活用し、個に応じた学習指導の徹底と学力向上に取り組んでいる。

しかしながら、開校当初は、教師も児童生徒も、これまでの紙中心の学習からの転換が上手くいかず、期待した程の成果が得られず、教員研修の見直しや新たな学習教材の選定等、腐心することも多かった。

こうした中、国において学習者用デジタル教科書の普及促進の方針にあわせ、AIドリルの開発と機能強化が図られたことで、本校でも、教育DX時代に相応しい、新たな学習スタイルの提案と実践が可能となった。

具体的な活用法としては、令和4年度までは、まだ教師主導の活用が中心で、一斉指導の中でドリル学習の時間を設定し、個人の判断で自由に活用させてきたが、この段階では、通常の授業の中で行う単元テストにおいても成績の伸びがあまり感じられないことに加え、令和5年5月に行われた長崎県学力テストにおいても県平均と同程度と、期待した成果は得られなかった。そこで令和5年度には、習熟別クラス編成（ノーマルクラス、アドバンスクラス）による指導体制に切り替え、個別最適な学びの強化を行うこととし、授業の進め方についてもノーマルクラスにおいてはAIドリルnavimaを活用する際に自己判断ではなく、児童一人一人の進捗状況に合わせ、教師主導の指導の徹底を行うこととした。なお、アドバンスクラスにおいては、これまで同様、児童の

判断でドリル学習に取り組ませた。その結果、ノーマルクラスの学力の伸びが著しく、令和6年4月実施の全国学力学習状況調査においても、全国平均を上回る好成績を収めることができた。一方、アドバンスクラスについては、一定の成果は得られたもののノーマルクラスに比べ伸び幅は小さく、期待したほどではなかったことから、今後は、上位層をターゲットとした更なる指導法の工夫改善が必要と考えた。

そこで令和5年度の2学期からはこれまでの取組を通して、算数科の学習指導においてはAIドリルの活用が有効であること、特に教師の指導を加味することでその伸びがさらに拡大するとの確証が得られたことから、その取り組みをさらに強化し、ノーマルクラスだけでなく、アドバンスクラスにおいてもAIドリルnavimaの活用の仕方や学習者用デジタル教科書のより効果的な活用法についても、教師の関わり方（指導）の徹底を行うこととした。現時点での評価になるが通常行う単元テストを見る限り昨年を上回る教育効果を実感している。

2. 今年度導入した新たな取組

(1) 対象とする学年・クラスの詳細

本年度の対象は、小学6年生である。児童は、ノーマルクラスとアドバンスクラスに分かれており、それぞれのクラスで異なる指導形態で学習活動を行っている。まず、ノーマルクラスでは、AIドリルnavimaを使用しながら教師による個別指導を行うこととし、アドバンスクラスでは自己判断を尊重はするが、機会があるごとに、AIドリルnavimaの活用を促している。



AIドリル学習中の個別指導の様子

(2) 使用したデータと分析手法

- ・学カテストの結果: 県学カテストと全国学カ学習状況調査の結果を比較分析する。
- ・AIドリルnavimaの使用ログ: 使用頻度や正答率を記録し、学習成果との関連を分析する。
- ・アンケート調査: 児童と教師へのアンケートを実施し、ICT活用の実態と意識を調査する。

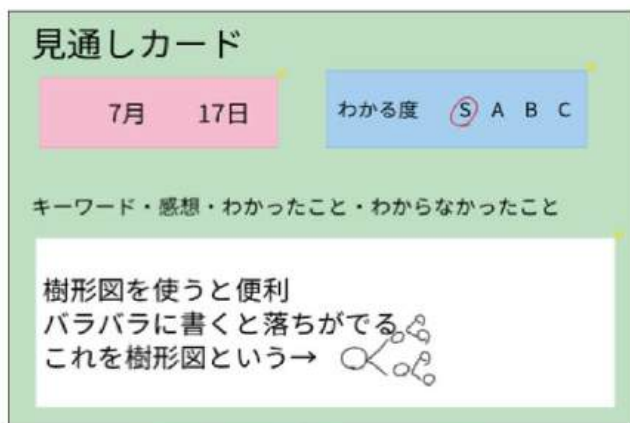
3. 指導法の改善・充実、実践

(1) 令和5年度を振り返って

令和4年度までは、一斉指導と自由使用を基本としていたが、令和5年度からは、児童の更なる学力向上を目指し、習熟度別指導を導入した。具体的には、ノーマルクラスではAIドリルnavimaの使用中に個別指導を強化し、アドバンスクラスでは数学の見方や考え方を重視した内容を紹介し、上級学年のAIドリルへの挑戦を促した。

(2) 令和6年度に強化したこと

児童には、授業前に学習者用デジタル教科書の授業動画を視聴し、授業のポイントを3つ書き出すよう指導した。また予習での学習の理解度をS、A、B、Cと自己評価し、メタ認知を高め、自己教育力を育てていく試みを行った。これにより、予習段階での理解を深め、授業への興味と参加意識を高めることを目指した。



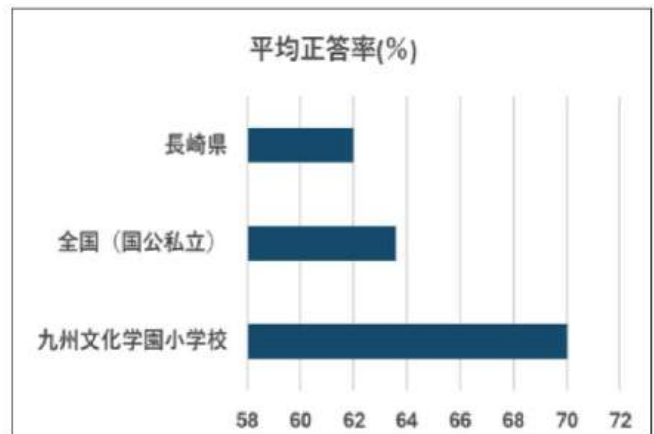
<児童の見通し(予習)カードの例>

4. 結果の分析

(1) 全国学カ学習状況調査の結果分析

令和6年度の全国学カ学習状況調査において、本校の小学6年生は、算数科において全国平均を6.4ポイント、長崎県平均を8.0ポイント上回る成績を取った。この結果は、算数科の指導において、習熟度別指導の有効性を示すものであり、AIドリルnavimaとデジタル教科書の活用が寄与したと考え

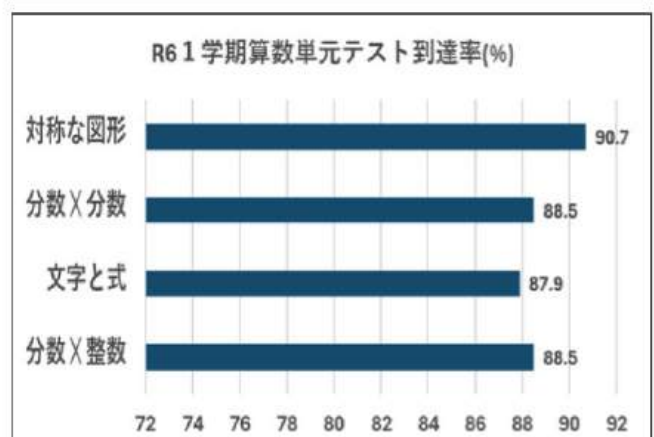
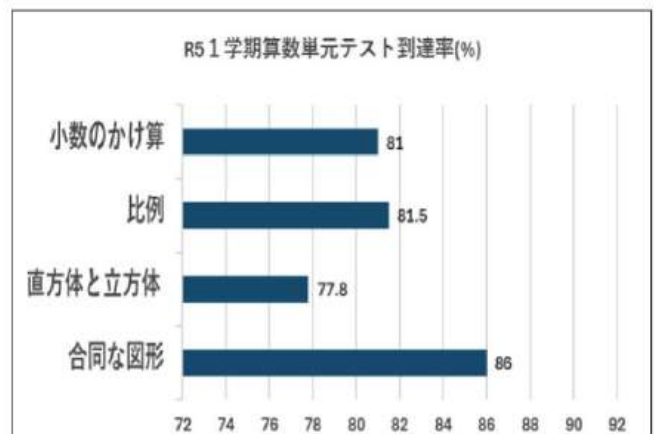
られる。(図1)



(図1) 令和6年度全国学カ学習状況調査結果(算数)

(2) 市販テストの成績向上

令和5年度の算数の1学期の単元テストと令和6年度に行った1学期の単元テストの到達率を比較すると全体的に児童の成績が向上していることが確認できた。(図2)

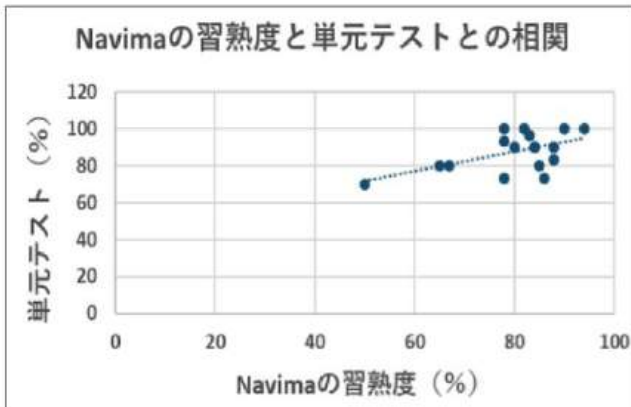


(図2) 令和5年度(上段)と令和6年度(下段)1学期算数単元テスト到達率の比較

(3) AIドリルnavimaの使用状況と学力の相関

1学期算数のAIドリルnavima習熟度と1学期算数単元テスト得点の相関をみたとき、習熟度と単元テスト到達率の間に一定程度の相関があることが

ら、AIドリルnavimaの習熟度が高いほど、単元テストの到達率も高くなる傾向があることが確認できた。(図3)



(図3) AIドリルnavimaと単元テストの到達率の相関

5. 質的な分析

(1) ノーマルクラスの児童の感想

・理解しやすさの向上:

「AIドリルnavimaを使うと、難しい問題でも少しずつわかるようになった。」

「おすすめドリル(フィードバック)が分かりやすく、間違いをすぐに直せるのが良い。」

「動画の解説があると、一人でも復習しやすい。」

・リアルタイムフィードバックの効果:

「間違えたときにすぐにおすすめドリル(フィードバック)がもらえて、その場で直せるのが良い。」

「先生がいないときでも、AIドリルが教えてくれるので助かる。」

・個別サポートの重要性:

「先生が横で教えてくれると安心して問題に取り組める。」

「友達と一緒にやると楽しいし、分からないところを教えてもらえるのがいい。」

(2) アドバンスクラスの児童の感想

・個に応じた発展問題の提供:

「自分のレベルに合った難しい問題に挑戦できるので、やりがいがある。」

「もっと難しい問題が欲しいと思うことが増えた。」

「難しい問題を解いたときの達成感が大きい。」

・自主学習の促進:

「AIドリルnavimaを使うことで、家でも自分で勉強する習慣がついた。」

「自分で進められるので、授業外の時間でも学習が進むのが良い。」

「自主学習の時間が増えて、勉強が楽しくなった。」

・理解度の深まり:

「デジタル教科書の動画で予習すると、授業での理解がスムーズに進む。」

「予習のおかげで、授業中に質問がしやすくなった。」

「動画の内容を何度も見返せるので、理解が深まる。」

6. 全体の傾向

アンケートを実施し、全体的な情意面の傾向を調査した。

Q1 デジタル教科書の授業動画はわかりやすく役に立っていますか。



Q2 AIドリルは好きですか。



Q3 AIドリルや授業動画を使ってタブレットで自主学習をすることは好きですか。



これらのデータを基に、AIドリルnavimaとデジタル教科書の効果をより多角的に評価し、今後の教育実践に役立てるための具体的な指導方法を検討していく必要がある。

7. 考察

(1) AIドリルnavimaの個別最適化学習の有効性

- ・ **基礎から高度な問題までの対応:** AIドリルnavimaは児童の理解度に応じた問題を提供することで、ノーマルクラスの児童には基礎の徹底を図り、アドバンスクラスの児童には高度な問題を提供することができる。このアプローチにより、全体的な学力向上が期待される。
- ・ **個別対応の重要性:** ノーマルクラスの児童にとっては、リアルタイムフィードバックと教師の個別サポートが重要であり、アドバンスクラスの児童においても教師の適切な助言を行うことが理解度の向上に寄与していると考えられる。
- ・ **自主学習の習慣化:** アドバンスクラスの児童にとっては、AIドリルnavimaとデジタル教科書の使用が自主学習の習慣化に役立ち、より高度な問題に挑戦する意欲が高まっていることが分かった。
- ・ **前向きな学習体験:** 多くの児童が、AIドリルnavimaとデジタル教科書の使用に対して前向きな感想を述べており、特に理解度の向上や学習への意欲の向上が挙げられる。
- ・ **リアルタイムフィードバックの効果:** AIドリルNavimaによるリアルタイムのフィードバックが、児童の学習進捗を助け、理解度を高める効果があると考えられる。

(2) デジタル教科書の授業動画における予習活用の効果

- ・ **学習の自主性の向上:** デジタル教科書や授業動画を利用することで、児童は自分のペースで学習を進めることができ、学習の自主性が育まれる。繰り返し学習することで理解度が深まるため、学力の底上げが期待される。
- ・ **高い自己評価が学習成果に直結:** 自己評価が高い児童ほど学習成果が高いことが示されており、自己評価を向上させるためのサポートや動機付けが重要であることが分かった。

小6単元テスト「分数のわり算」の到達率と授業動画を見て予習した時の自己評価の間には、一定程度の正の相関があり、自己評価が高い児童ほど単元テストの到達率も高い傾向があることを示唆し

ている。

この関係は、自己評価が学習の成果と一致している可能性を示しており、学習における自己認識の重要性を強調している。

8. 今後の展望

(1) 習熟度別指導の効果と課題

習熟度別指導は、児童の個別学習を支援し、全体的な学力向上に効果的であった。しかし、一部の児童は自己判断での学習に難しさを感じており、教師の更なるサポートが必要とされる。AIドリルNavimaとデジタル教科書の活用により、児童の学習への主体性が向上し、理解度が深まったことが確認された。これは1つの事例ではあるが、こうしたICTツールの効果的な活用法の検証は、今後の教育現場における重要な課題である。

(2) 長期的な効果の検証と改善点

今回の研究は、算数科を中心に、また短期間でのAIドリルNavimaとデジタル教科書の効果についての実証を行った結果であるが、今後は教科の枠や学年の枠を越えて、これらのツールが児童の長期的な学習成果に与える影響を継続的に調査する必要がある。特に、習熟度別指導が児童の学力や学習意欲に及ぼす長期的な効果を確認することで、指導法の改善点を特定し、さらに効果的な教育を実現することが重要であると考えている。

(3) 更なるデータ収集と分析

今回の実証では、主にテストの成績とアンケート調査を用いて分析を行ったが、今後は学習態度や学習に関連する他の要素を含めたデータの収集と総合的な分析が求められる。特に学習に向かう動機付けについてどのような方法があるか検討する必要性を感じた。

本校ではAIドリルnavimaの提供企業とも連携し（産学連携事業として継続的に実施）、より効果的な活用の仕方や分析方法（学校の視点での分析、出題者側の意図した分析）について産学連携の取組を続けている。これにより、児童の全体的な成長を捉えることができ、教育の質をさらに向上させるための具体的な指導方法を確立することが可能となるものと考えている。

へき地学校教育支援事業

今年度は下の19校にへき地学校教育支援事業を実施しました。今まで現金による助成を実施してきましたが、今年度から口座振込による助成となったため、各学校へは目録を贈呈させていただきました。

- ・長崎市立高島小中学校
- ・長崎市立池島小中学校
- ・対馬市立巖原小学校
- ・対馬市立巖原北小学校
- ・対馬市立久田小学校
- ・対馬市立金田小学校
- ・対馬市立鶏鳴小学校
- ・対馬市立今里小学校
- ・対馬市立大船越小学校
- ・対馬市立美津島北部小学校
- ・対馬市立豊玉小学校
- ・対馬市立西小学校
- ・対馬市立東小学校
- ・対馬市立仁田小学校
- ・対馬市立比田勝小学校
- ・西海市立江島中学校
- ・小値賀町立小値賀小学校
- ・小値賀町立小値賀中学校
- ・小値賀町立小値賀小学校大島分校

園児用図書贈呈事業

今年度はご申請いただいた33園に園児用図書の贈呈を実施しました。

- ・皓台寺幼稚園
- ・聖アントニオ幼稚園
- ・中央こども園
- ・あぜかりこども園
- ・花園こども園
- ・小ヶ倉こども園
- ・滑石保育園
- ・認定こども園 桜町保育園
- ・ざぼんちゃん浦上認定こども園
- ・広田幼稚園
- ・早岐くりのみ幼稚園
- ・黒髪くりのみ幼稚園
- ・吉井中央幼稚園
- ・東大野幼稚園
- ・光の子グレースこども園
- ・九州文化学園幼稚園
- ・小佐々幼稚園・保育園
- ・塩浜青い実幼児園
- ・向陽幼稚園
- ・ながたこども園
- ・認定こども園 サンタの家
- ・エミー認定こども園
- ・たけまつこども園
- ・吉井にじいろこども園
- ・こもれびの舎こども園
- ・西彼中央幼稚園
- ・大島こども園
- ・小浜こども園
- ・どんぐりこども園
- ・みのりこども園
- ・フレンド幼稚園
- ・今福こども園
- ・県立盲学校（幼稚部）



認定こども園
サンタの家さんから
「かわいいお礼」を
いただきました！



能登半島災害支援事業 へのご協力ありがとうございました。

クイズに答えて
能登神子原米
2kgを当てよう



問題 70歳のお祝いを「古希」といいますが、この言葉の由来となった詩を書いたのは誰でしょう。

答えは ア 李白 (イ) 杜甫 ウ 陶淵明 エ 白楽天

応募総数 239 名の中から、70 名の方に能登神子原米 2kg を学校に送らせていただきました。直接学校に発送しましたので、驚かれた方もいらっしゃったとお伺いしました。お知らせが遅れて申し訳ありませんでした。

また、応募と同時に皆様からのご感想も多数いただきました。誠にありがとうございます。一部ではありますが、ご紹介させていただきます。

- ・ 今回のクイズは、災害支援の一環としてされていることが素敵だなと思いました！
- ・ 70周年おめでとうございます。記念のボールペン、ありがたく使わせていただきます。
- ・ 3人の子どもがそれぞれ弘済会の奨学金のお世話になりました。大学入学に当たり予想していなかった経費が色々あり、弘済会からの奨学金がとても心強かったことを覚えています。
- ・ 子供たちの学ぶ環境づくりに力を貸していただきありがとうございます。
- ・ 丁寧な対応に感謝しています。転職してもしっかりと対応いただくところが他の保険会社にはない有り難さです。
- ・ 長崎県立佐世保特別支援学校の記事はとても興味深かったです。日頃の学習や行事で生徒ひとりひとりがいろいろな体験を積むことで成長するのだなと感じました。
- ・ 読み物をいつも楽しく読ませてもらって、仕事の合間にひと息ついています。
- ・ 広報誌で知っていますが、いつもいろいろな活動をして学校などに貢献していただいているので感謝しています。
- ・ 保険に関する事業だけでなく、学校を様々な面で応援してくださる事業を実施してくださっていることに感謝しています。
- ・ 有意義な取り組みありがとうございます。能登半島地震支援も大いに賛同します。
- ・ 奨学金でたくさんの喜びの声があって若い人たちのエネルギーが伝わってきたのがよかったなあと思いました。
- ・ いつも丁寧に対応していただき感謝しています。わからないことも、真摯に回答いただきありがとうございます。弘済会報も、役に立つ情報やお得な情報があり、とっても楽しみです。

2025年 春
配信開始

日本教育公務員弘済会

ショートメッセージサービス

SMS配信について



こちらの番号から
SMSが届きます

ドコモ・au・楽天

03 3354 4001

095 822 2313

050 5830 6413

ソフトバンク

243063

● おしらせ ●

SMS配信をはじめます。

配信先：弊会にご登録いただいている携帯電話

配信目的：奨学事業に関する確認・依頼事項など。

休業後の復帰時期に関する確認や、宛所不明になった記念品等の配送先に関すること、
損害保険等の更新や新契約に関するご案内など対象のお客様へ個別の配信など。

※送信専用です。事業により送信される番号は異なります。

ご注意



以下のようなことをお願いすることはありません。

1. 日本教育公務員弘済会以外の口座名義へ振り込みをお願いすること
2. ATM（銀行・コンビニエンスストアなどの現金自動預払機）の操作をお願いすること
3. 通帳やキャッシュカードを預けるようお願いすること

内容に心当たりのないSMSが届いた場合は、お手数ですが日本教育公務員弘済会長崎支部（095-822-2305/095-822-2313）までご連絡ください。

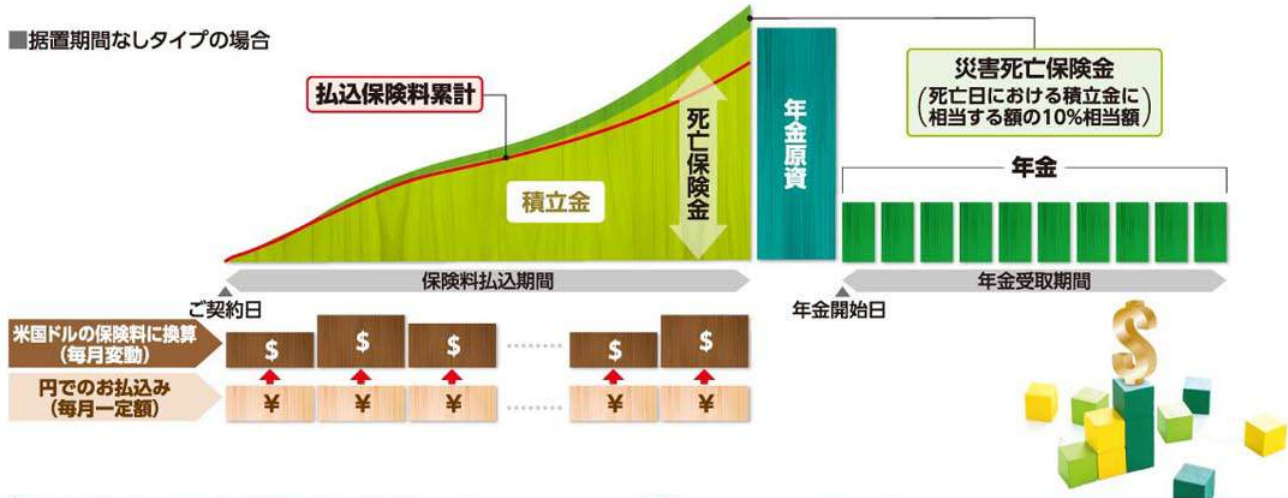
教職員の
ための

新教弘米国ドル建個人年金保険

米国ドル建個人年金保険(19)(無配当)

米国ドルで時間をかけて作る“自分年金”を考えてみませんか？

■据置期間なしタイプの場合

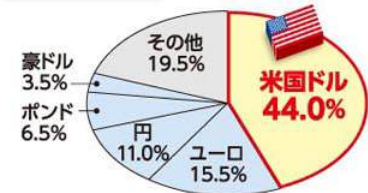


- 1 毎月の保険料のお支払いは「円」で一定です。
●円建保険料はお支払みの都度米国ドルに換算するため、米国ドル建保険料は毎月変動します。
- 2 「米国ドル」での積立金が着実に増加します。
※米国ドル建保険料は毎月変動するため、年金原資(年金開始日前日末の積立金額)は年金開始まで確定しません。
- 3 ライフプランや為替相場の動向にあわせて「自分年金」を作ることができます。

- 4 健康状態に関する告知や医師による診査は必要ありません。(職業告知のみ)
- 5 個人年金保険料控除により所得税・住民税が軽減されます。
●個人年金保険料税制適格特約を付加することにより、個人年金保険料控除の適用が受けられます。
※契約内容によってはお取扱いできない場合があります。詳しくは「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

信頼される国際通貨 [米国ドル] 米国ドルは世界の基軸通貨としての存在感があり、経済力のある国の通貨です。

米国ドルの魅力 外国為替市場に占める取引高No.1の米国ドル



出典:国際決済銀行資料(Triennial Central Bank Survey Report on global foreign exchange market turnover in 2016)をもとに当社で作成

米国の魅力 名目GDPが世界一の米国



出典:World Bank, World Development Indicators, 1 July 2019より
※GDP(国内総生産)とは国内の経済活動全体を通じ、一定期間内にどの程度の経済的な付加価値が生み出されたかを示すものです。

金利の魅力 魅力的な10年国債の利回り



出典:Reutersの情報に基づき当社で作成
※このグラフは過去の数値を示したもので、将来を示唆するものではありません。

個人年金保険料控除で税金の負担が軽減されます。

例 新教弘米国ドル建個人年金保険の保険料を年間24万円お支払いいただいた場合(他の生命保険契約は無しとします)

●所得税4万円、住民税2万8千円の生命保険料控除を受けた場合

家族構成	年収	合計軽減税額 (所得税+住民税)	家族構成	年収	合計軽減税額 (所得税+住民税)	家族構成	年収	合計軽減税額 (所得税+住民税)
単身世帯の場合	400万円	4,800円	夫婦のみの場合	400万円	4,800円	夫婦と子ども2人(大学生と高校生)の場合	400万円	4,800円
	600万円	6,900円		600万円	6,900円		600万円	6,900円
	800万円	11,000円		800万円	11,000円		800万円	6,900円
	1,000万円	11,000円		1,000万円	11,000円		1,000万円	11,000円

※夫婦はいずれか1人が年収を得ているケース。出典:生命保険文化センター「知っておきたい生命保険と税金の知識」(2020年2月)

※ご契約の際はジブラルタ生命のライフプラン・コンサルタントを通じて「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」にご契約のしおり・約款を必ずご確認ください。
●記載の内容は2024年4月1日現在のものであり、今後変更されることがあります。

団体扱自動車保険のご案内

トータルアシスト自動車保険

団体扱契約は一般契約に比べて

約 **27%** 割安!!^{*1}

東京海ジョー

「東京海ジョー」は、東京海上日動のキャラクターです。



*1 長崎県の団体扱割引は23.5%です。団体扱割引23.5%は、保険期間の始期日が2024年3月1日から2025年2月28日までの契約に適用されます。割引率は、団体の損害率等により毎年見直されます。団体扱一時払は一般契約一時払に比べて5%割安です。団体扱分割払は一般契約と異なり分割割増がかからないので約5%割安となります。上記割引率は、次のとおり、団体扱割引等を連算して算出しております。

一時払の場合：1 - {(1 - 団体扱割引・23.5%) × (1 - 団体扱一時払割引分・5%)} 分割払の場合：1 - {(1 - 団体扱割引・23.5%) ÷ (1 + 一般契約分割割増分・5%)}

特長
1

現在のノンフリート等級を継承!

※他の保険会社、J A 共済、全労済等を含みます。ただし、一部の共済を除きます。

特長
2

同居の親族のお車も契約対象!

※団体扱の対象となる方の範囲(契約者・記名被保険者・車両所有者)や団体扱特約失効時の取扱いについては、代理店または東京海上日動までお問い合わせください。

特長
3

ご家族で2台以上お持ちの場合は、『団体扱ミニフリート』がおすすめです!

※一部の特約を除き、保険料全体に割引が適用されます。適用条件等は代理店までお問い合わせください。

比較してください!!

(基準日：2024年3月1日現在)

ご契約例	東京海上日動の一般契約	東京海上日動の団体扱契約	差額
一時払	年間 171,850円	年間 124,890円	年間 46,960円 割安!!
分割払	月々 15,030円 (年間180,360円)	月々 10,950円 (年間131,400円)	月々 4,080円 (年間48,960円) 割安!!

トータルアシスト自動車保険(総合自動車保険)の保険料例

<ご契約条件>

保険期間：1年間、ノンフリート等級：8等級(割引38%)、事故有係数適用期間：0年、お車の用途・車種：自家用小型乗用車、車名：ノート、型式：SNE12、料率クラス(車両9、対人4、対物6、傷害7)、初度登録年月：令和4年3月、新車割引有、お車の使用目的：日常・レジャー使用、年齢条件：21歳以上補償、記名被保険者の免許証の種類(色)：ゴールド、対人賠償責任保険：無制限、対物賠償責任保険：無制限、人身傷害保険：3,000万円(傷害一時費用保険金10万円)、車両保険260万円(一般条件、免責金額1回目0万円 2回目以降10万円)、車両新価保険特約(協定新価保険金額260万円)、弁護士費用特約(自動車事故型)

※補償内容には、自動セットされる特約も含まれていますが、記載は省いている特約もあります。

引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

24TX-002387 2024年8月

お見積りの流れ

他社からの切替も簡単

お見積りは下記の手順でFAXください



095-823-0220

(長崎教弘行)

または

下記取扱代理店FAX

STEP 1

下記「お見積り依頼書」をご記入ください。

STEP 2

「自動車保険証券(表面と裏面両方)」
又は、中断証明書および自動車検査証の
コピーをご用意ください。

STEP 3

Step1とStep2の書類をFAXにて
ご送信ください。

STEP 4

後日、下記取扱代理店からお見積りについて
ご連絡いたします。

自動車保険 お見積り依頼書

※は必ずご記入ください。

フリガナ		※ご希望連絡先：自宅・職場・携帯	
お名前	※	()	-
部署名	※	現契約の満期月	※ 令和 年 月
<input checked="" type="checkbox"/> をおつけください。	※ 希望連絡時間帯	<input type="checkbox"/> 午前中	<input type="checkbox"/> お昼休み(12:00~13:00) <input type="checkbox"/> 午後 <input type="checkbox"/> 夕方
同居のご家族のお車の保有情報をお寄せください。 (今回のアンケートに記載のお車を含め)	1台	2台以上→	団体扱ミニフリートをご検討ください。
自動車保険証券の添付はご確認いただきましたか？			はい <input type="checkbox"/>

ご存知ですか!?

ドライブレコーダー付き自動車保険

ドライブエージェント パーソナル(DAP)

ドライブエージェント パーソナル(DAP)は「事故発生の通知等に関する特約」をご契約いただいたお客様にご提供するテレマティクスサービスです。

もしもの事故も、いつもの安心も。
ドライブレコーダーが見守ります!

後方も撮影可能!
2カメラ一体型



<内側>

<外側>

特約保険料*1

月額810円

東京海上日動オリジナルドライブレコーダーの主な特徴(共通)

映像を鮮明に記録

自動で事故連絡&通話も可能

常に最新版に自動アップデート

事故時の映像を自動送信

*1 保険期間1年、団体扱の場合の分割保険料です。※事前にご確認いただきたい主な注意事項等、詳しい手続方法は専用チラシ等でご確認ください。

※当代理店は、ご提出いただいた個人情報を東京海上日動より委託を受けて行う損害保険の募集およびこれに付帯・関連するサービスの提供等に利用させていただきます。東京海上日動における個人情報の取扱い等については、ホームページ(www.tokiomarine-nichido.co.jp)に掲載しております。

「トータルアシスト自動車保険」は、総合自動車保険のペットネームです。このチラシは自動車保険(団体扱)の概要についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は、代理店または東京海上日動までお問い合わせください。

こちらのQRコードからも自動車保険のお見積り依頼ができます



《お問い合わせ先》 株式会社長崎教弘

長崎市筑後町2-1 教育文化会館206

TEL:095-822-2313 FAX:095-823-0220

【保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社

担当課：

ご退職予定の教職員のみなさまへ

現在ご加入いただいている教弘保険は、
子どもたち、教職員のために
契約者配当金を使用されている特殊な生命保険です。
ご退職後も、引き続き65歳までご継続できます。
(65歳以降は最長80歳まで継続可能な新教弘保険K型がございます)

福祉事業 自分のために・・・

地区総会開催

懐かしい同僚、先輩方とお食事をしながら交流を深めることができます。

人間ドック補助

10,000円を限度に補助
(脳ドックを含む)

宿泊施設利用補助

1泊3,000円の利用補助券発行

研修補助

国内研修 5,000～20,000円
海外研修 30,000円補助

古希祝い

5,000円相当の
カタログギフト贈呈

記念品贈呈

新教弘保険K型に移行された方へ記念品贈呈

教育振興事業 子どもたちのために・・・

生命保険をご継続いただくことで、たくさんの子どもの笑顔を守ることが出来ます。



教育研究助成事業

奨学事業
給付型・貸与型の実施

教育文化事業

共済事業（提携保険事業） 自分と大切な人のために・・・

退職後の生命保険の払い方変更、退職後に発生する税金などのご相談は、
ジブラルタ生命の担当へお気軽にご相談ください。 **教職員専用ダイヤル 0120-37-9419**

※公益財団法人日本教育公務員弘済会の教育振興事業及び福祉事業は教弘保険の契約者配当金により運営されており、日本の教育界に貢献しています。